

5-1

論理的読解力を育てる 『読解メソッド』の取り組み

京都市立御所南小学校 藤本 鈴香

はじめに

本校は、平成7年に5つの小学校が統合して誕生した。統合した5つの小学校は、明治二年、全国に先駆け、京の町衆によって創設された番組小学校を起源としている。歴史的に見ても、地域の教育に対する熱意は高く、今なお、その願い・思いは脈々と受け継がれている地域である。当時より、学校という学び舎が地域の核となり、人々の絆を強く結び付けてきた。



そのような地域の教育に対する願い・思いを受け止め、地域の自然・伝統・文化を生かし、地域・家庭・学校が一体となって「確かな力」と「豊かな心」をもち、一人一人が輝く学校をつくっていきこうと取り組みをすすめている。「地域の子どもは、地域で育む」という機運を基盤として、地域とともに創る「夢が広がる地域の学校」をコンセプトに、平成14年度より、文部科学省「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究」の指定を受け、コミュニティ・スクールを目指した学校運営改革を進めている。(資料1・2参照)

さらに、平成18年度より「京都市小中一貫教育特区」を受け、2小1中学校の体制を整え、小学校中学校の義務教育9年間を一貫としてとらえるとともに、これまでの6・3の区切りを見直し、5・4の区切りをつくることとした。中学3年をはじめとした児童・生徒の確かな学びのために重点教科等を設け、9年間の



カリキュラムの作成もすすめているところである。その柱の一つを『論理的読解力』として新設し、すべての教科等の基盤となる力として位置付け、具体的には、プレゼンテーションできる力、論文を書く力につなげていきたいと考えている。この小中一貫教育によって、地域・家庭・学校の協働していく力が拡大されることになる。変化の激しい社会を、夢とあこがれをもち、自らの力で切り拓いて未来に向かって輝き、よりよい社会を創造していく子どもたちを育成したいと考える。

1 御所南校の研究主題について

コミュニティ・スクールを目指し、また小中一貫教育を推進していくための学校運営改革を進めていくうえで、研究主題を次のように設定している。

**生涯学習を支える自己教育力を
身につけた子どもの育成**
—確かな学力と豊かな心、
健やかな体の育成と
新たな地域コミュニティの創造—

生涯にわたって学び続ける資質や能力を身につけた子どもの育成をめざし、自分で課題を見つけ、自分で考え追究し、学びを生かしていく子どもたちを育てようとしている。

このような自己教育力を身につけた子どもを育てていくためには、「学ぶ力」と「基礎・基本となる力」をつけることが必要であると考えている。そのためには、以下の取り組みを研究の重点として、具体的な実践を展開している。

◆「学ぶ力」を育てる

総合的な学習を通して育てるために

- ①地域の素材を生かし、地域で学び、地域に学び、地域と共に学ぶ学習を展開する。
- ②学年のテーマ、学校の共通テーマを設定して確実に力がつくカリキュラムを創造する。
- ③問題解決的な学習過程を通して、問題発見・解決の力を育てる。

◆「基礎・基本となる力を育てる」

- ①教科と総合的な学習で共通して育てる「基礎・基本となる力」を明確にする。
- ②総合表現力を育てるための「かがやきタイム」〈朝の帯時間を活用〉の運営を行う。
- ③T T教員と担任がチームを組んで指導にあたる。

「学ぶ力」「基礎・基本となる力」を育成していくうえで、今年度は特に、いわゆる「PISA型読解力」を育てるための教育課程の改革を推進していくことにした。そのためには、「読解力」育成の基盤整備が必要である。カリキュラム改革・研究組織・指導力向上のための研修計画などに加え、地域・家庭の理解・協力を得て連携して進めていくことが必要と考える。

つまり、本校が目指す子どもたちの自己教育力育成のためには、自ら課題を見つけ、自分の考えを構築し、その考えが相手に伝わるように論理的に表現するための力が不可欠と考える。そこで、各教科、特別活動、総合的な学習の時間に生きてはたらく力として、論理的読解力を育成していくと考えた。



御所南プラン 学校教育計画 夢がひろがる地域の学校（コミ



コミュニティ・スクール)をつくる

小中一貫教育目標

未来にかがやくコミュニティ・スクールの創造
 Originate glowing tomorrow
 ~豊かな学力・豊かな心・健やかな体を身に付け、
 未来に向かって輝く子どもの育成~

地域連携目標

学校と地域コミュニティが連携・協働する

小中一貫カリキュラムの重点

英語コミュニケーション力の育成

問題解決力の育成
(総合・キャリア教育)

論理的読解力の育成
(PISA型読解力)

科学的リテラシーの育成
(科学的な考え方を活用する能力)

数学的リテラシーの育成
(数学的な考え方を活用する能力)

- ・9年間を見通したつけない力の設定
- ・小中一貫カリキュラムの作成
- ・指導方法の改善と工夫
- ・中学校教員による授業
- ・学習形態の工夫

表現力の育成

豊かな心の育成

- ・つけない力の設定
- ・小中共同授業の開発
- ・小中共同活動の創造

- 文化コミュニティ
- 福祉コミュニティ
- スポーツコミュニティ
- 町づくりコミュニティ

地域との連携を深める

地域コミュニティ委員会
 ○子ども体験ランド・
 子どもの安全の取組
 ・文化活動
 ・福祉活動
 ・スポーツ活動
 ・町づくり活動

- 国際コミュニティ
- ジュニアコミュニティ
- コンピュータコミュニティ
- 図書館コミュニティ

幼小中の連携を深める

幼小中コミュニティ委員会
 ○幼小中共同「御苑
 ウォークラリー」の実施
 ・国際理解・協力活動
 ・幼小中連携活動
 ・コンピュータ利用活動
 ・図書館利用活動

- 学びコミュニティ
- 表現コミュニティ
- 健康コミュニティ
- 環境コミュニティ

家庭との連携を深める

スクール・コミュニティ委員会
 ○サマーカレッジ・
 体験ミュージアム
 ・楽しい学習活動
 ・音楽・美術・表現活動
 ・健康づくり活動
 ・学習環境づくり活動

学校運営協議会（御所南コミュニティ理事会）

御所南コミュニティ

平成18年度

学校運営システム改革プラン

柔軟な教育課程の編成

カリキュラム改革

学校経営改革

個性を育てる学習

- 少人数指導
- ・「1人1冊」と「1人1冊」による指導
- 習熟の程度に応じた指導
- ・一歩教科において習熟の程度に応じた指導を行う
- 一歩教科担任制
- ・中・高学年で一歩教科担任制での授業を行う

豊かな学力

- 基礎・基本の明確化
- ・「1冊1冊」と「1冊1冊」による指導
- 2教科の連携
- ・習熟度に応じた学習の連携
- 知/中連携カリキュラムの編成
- ・知/中連携カリキュラムの編成
- ・小・高学年から小学校へのシームレスな連携
- ・小学校から中学校への知識的・スキルの連携

発展的な学習

- コンピュータ学習
- ・アプティプロシミュレーションによる学習
- ・コンピュータによる学習
- 課題学習、総合表現
- ・総合的な学習の時間
- ・総合的な学習の時間
- ・総合的な学習の時間

学びの機会

- カガやきタイム
- ・始業前の学習時間
- ・英語や表現の基礎
- 補充時間
- ・1～6年生を対象に学習の基礎の徹底
- 読書指導
- ・図書館の有効な活用をはかる

学びを深める

- 総合コミュニティ
- ・コミュニティ「かがやき」(SRLあいらい)
- 進路指導
- ・12のコミュニティによる支援
- カリキュラム評価
- ・学期ごとのカリキュラム評価
- ・年度ごとのカリキュラム評価

御所南コミュニティ

- 学校と共同でカリキュラム編成
- ・12のコミュニティによる計画
- ・地域人材の確保
- 学習支援
- ・12のコミュニティによる支援
- カリキュラム評価
- ・学期ごとのカリキュラム評価
- ・年度ごとのカリキュラム評価

任用

- 教員・非常勤講師の公募
- ・教員の公募と学校による承認
- ・非常勤講師の公募と学校による承認
- 校内昇進
- ・教員の公募と学校による承認
- ・非常勤講師の公募と学校による承認

研修と評価

- 研修と評価
- ・教員研修のプロシエクト
- ・学校評価・進捗評価の構築

学校予算

- 予算の計画と運用
- ・学校予算の効率的運用
- ・学校予算の専決
- ・予算の拡大

学習環境

- 学習ゾーンの充実
- ・各期に学習ゾーン
- ・学習ゾーン内
- ・学習コーナー
- ・ラーニングセンター

教育環境

- 改善計画策定センター
- ・改善計画の推進
- ・校内LAN接続
- 地域の教育環境
- ・学校運営協議会による見直し
- ・施設設備との連携

- 学校予算の評価
- ・予算計画の承認
- ・予算執行の評価
- 人事の評価
- ・非常勤講師活用の評価
- ・校内昇進の評価
- 学校運営の評価
- ・地域教育連携の推進
- ・学校環境の評価

自主的・機能的な組織運営

地域・家庭・学校が協働して創りあげる「コミュニティ・スクール」を創造していくうえで、子どもたちに不可欠な力はコミュニケーション能力である。学校では多くの教職員や友達、そして地域では、地域の方、先輩や後輩、家庭では家族や親戚といったように、実に多くの人と関わり合いながら生活している。そのような子どもたちの日常生活からみても、人との関わりを豊かにしていくために「読解力」の育成を、学校生活全体を通して培っていくことが必要であり、また「読解力」の

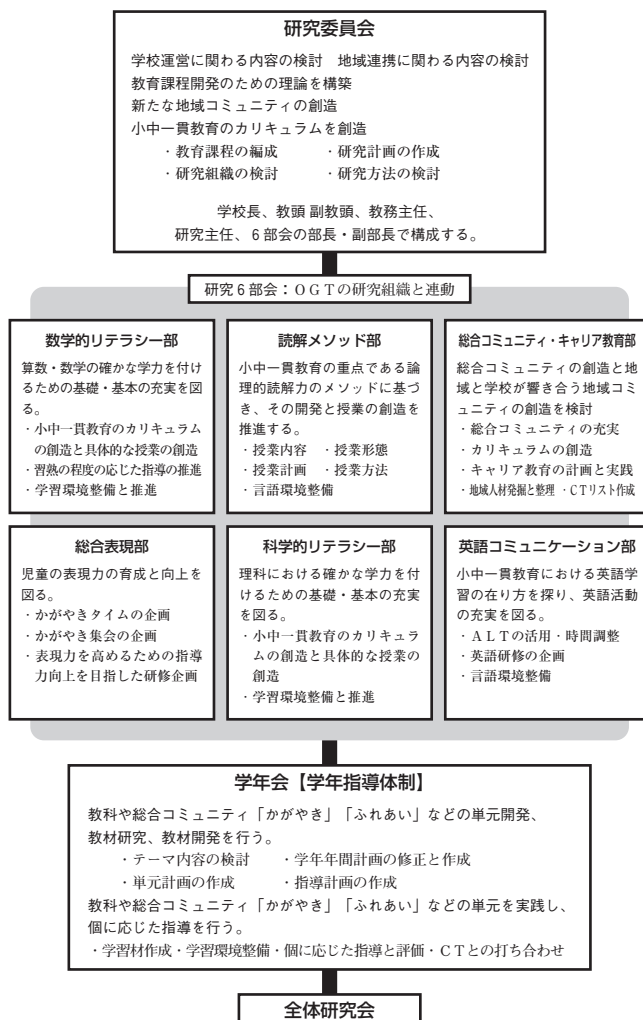
育成が学校生活を支えるうえで重要な課題であるととらえている。

本校では、問題解決に必要な情報を収集、抽出、選択し、その情報から筋道立てて考えたり判断したり、解釈・評価したり、さらに自分の考えが相手に伝わるように表現していくことができる力を論理的読解力として定義し、そのような「読解力」の育成を「読解メソッド」の時間として年間35時間の特設し、平成18年度より全学年で取り組みを推進している。

2 「読解力」向上を目指した研究組織

先に述べたような「読解力」を育成するための年間35時間の取り組みを具体的に展開していくうえで、次のような研究組織を編成した。図中のOGT

の研究組織とは、小中一貫教育として2小1中で推進している組織を指している。



3 教育課程の構造

各教科、道徳、特別活動の時間の関係を、下図のように整理し、学校の教育課程を編成している。特に論理的読解力を育成することを旨とした「読解メソッド」は、どの学習においても基盤となる力としてとらえ、教育課程を編成している。

総合的な学習である総合コミュニティは、『学ぶ力』を育てることをねらいとして「人・自然・社会に興味や関心をもってかかわり、ふれあいを深め、自分にとって意味ある課題を見つけて自分らしく追究する力を育てるとともに、実践を通して自分の生き方や考え方を確かにし、地域や社会に生かす力を養う」ことを目指している。

総合コミュニティは「かがやき」「ふれあい」「英語活動」の3つで成り立ち、それぞれテーマをもたせて、学習を進めている。

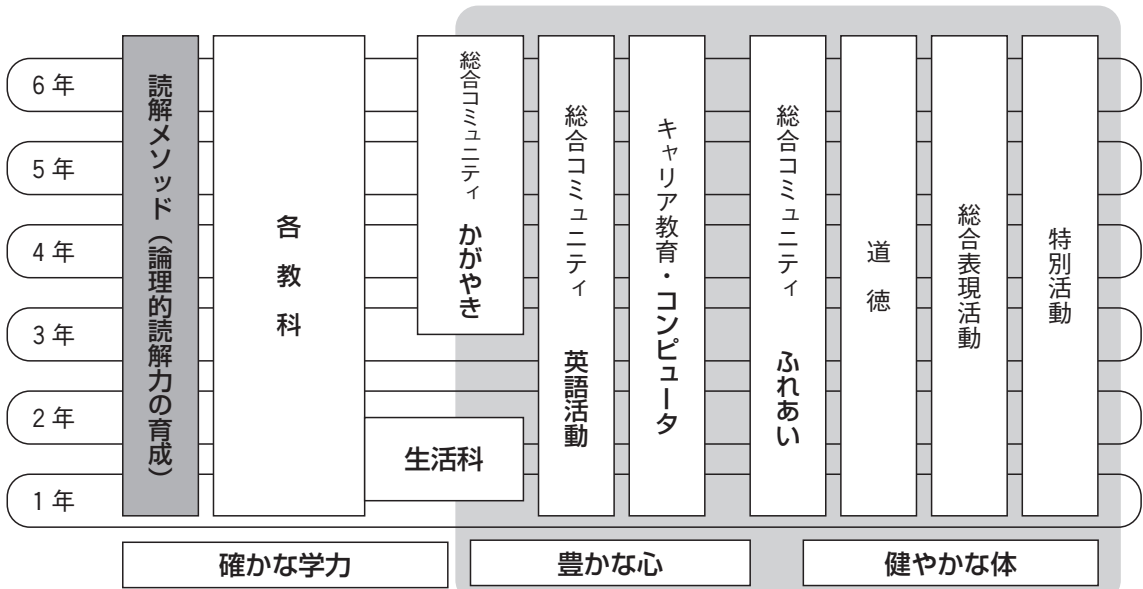
総合コミュニティ「かがやき」では地域の自然・社会・文化にふれ、問題を発見して、解決し、生かしていくこと（学ぶ力を育てること）をねらいとしている。比較的長い時間を設けた単元構想の中で「かかわる力」「調べる力」「考える力」「表す力」（基礎・基本となる力）を付けることも目指している。総合コミュニティ「かがやき」は「基礎・基本となる力」と「学ぶ力」を結び付けるために教科と

の関連を考慮して教育課程に位置付けている。

総合コミュニティ「ふれあい」は主に『豊かな心』を養うことをねらいとしている。体験的な学びを通して、「かかわる力」「考える力」をつけることもめざしている。そこで、道徳との関連を考慮して教育課程に位置づけている。また、御所南コミュニティとの連携授業もコミュニティ「ふれあい」に位置付けさまざまな人・こと・ものと出会うことを通して『豊かな心』を養っていきたいと考えている。

総合コミュニティ「英語活動」は英語を使って伝えようとする意欲や態度、また、英語による簡単なコミュニケーション力を学ぶ場として設定している。英語に慣れ親しむ活動によって、国際理解を図っていったり人とのかかわりを深めたりする力を育むことを目指している。

今年度新たに設定した「読解メソッド」は、各学年35時間実施する。情報を収集・選択し、自分なりの考えを相手に伝わるように筋道立てて表現する力を培っていこうと考える。読解メソッドで培った力を、各教科や総合コミュニティ、道徳、特別活動、そして日常生活において生きてはたらく力となるように指導内容や指導方法を工夫していく。



4 読解メソッドの取り組み

本校の子どもたちは、自分の考えを伝えたいという意欲が高く、学習中も積極的に発言したり、思いを書いたりする様子が見られる。様々な学習活動で、意図的に「話すこと」「書くこと」を多く採り入れ指導してきた結果、表現することに対して、積極的な子どもたちが多い。「読解メソッド」の学習を始めるにあたって行ったアンケート調査資料3においても、グループで話し合う活動が好きだと答える子どもたちが7割を超え、また、自分の

思いや考えがもつとうまく伝えられたらよいと感じている子どもたちは9割を超える結果が得られている。

一方、スピーチや作文表現においては、苦手意識を抱いている子どもたちの姿も見られる。苦手とする理由の最たるものが「どのように表現すればうまく伝わるのかわからない」というものであった。

資料3 読解に関する児童の意識に関するアンケート・全学年に実施

	質問内容	回答類型
1	本を読むことがどれくらい好きですか	とても好き・まあまあ好き・あまり好きでない・好きでない
2	一か月に何冊の本を読みますか	10冊以上・6～9冊・3～5冊 1、2冊・読まない
3	グループで話し合う活動が好きですか	とても好き・まあまあ好き あまり好きでない・好きでない
4	友達の前で話をするのが得意ですか	とても好き・まあまあ好き あまり好きでない・好きでない
5	作文を書くことが好きですか	とても好き・まあまあ好き あまり好きでない・好きでない
6	5の問いで「あまり好きではない」「好きではない」と答えた人に尋ねます。好きでない理由は何ですか	どう書けばよいのかわからない・書くことが思いつかない・書き出しが思いつかない・時間がかかる・面倒くさい・他人に読まれるのがいやだ・その他
7	自分の思いや考えがきちんと伝えられていると思いますか	とても思う・まあまあ思う あまり思わない・思わない
8	自分の思いや考えがうまく伝わると思いますか	とても思う・まあまあ思う あまり思わない・思わない
9	自分の考えをつくりだすことが好きですか	とても思う・まあまあ思う あまり思わない・思わない

OECDのPISA調査結果からみても、学んだことを応用し実生活に生かしていく能力は、益々必要とされるものとする。情報を収集・選択し、示された内容を的確に解釈し、自分はどう考えるのか、どう判断し実践していくのか、そしてどのように表現すれば他者と理解し合えるのか、その能力を培っていくことが大切であるとする。

そこで、論理的な思考力を育てることに重点を置き、必要な情報を収集・選択したうえで内容を解釈し、相手が納得できるように方法を工夫して

表現できる力を育てていこうと考えた。

そのために、フィンランド国語教科書を教材の中核に据え、9年間を見通したカリキュラム開発を行っている。

このフィンランドの国語教科書を使用した理由は、『考えるための教科書』であり、『考えるためのプロセス』を重視している点である。『自ら考える力』の育成は、本校の研究の重点であることは冒頭で述べている通りである。

また、子どもたちの読書力を育てるための補助

教材や、論理的に話したり書いたりできる能力を高めるための指導方法などを開発し、実践的に研究を推進していくことにした。相手に確かに伝えることができる方法を習得できるようにし、論理的に表現していくことができる力、目的や場面、状況に応じて表現していく力、そして、目的に応じて情報を収集し、内容を的確に読み取り、考える力を育てようと考えた。

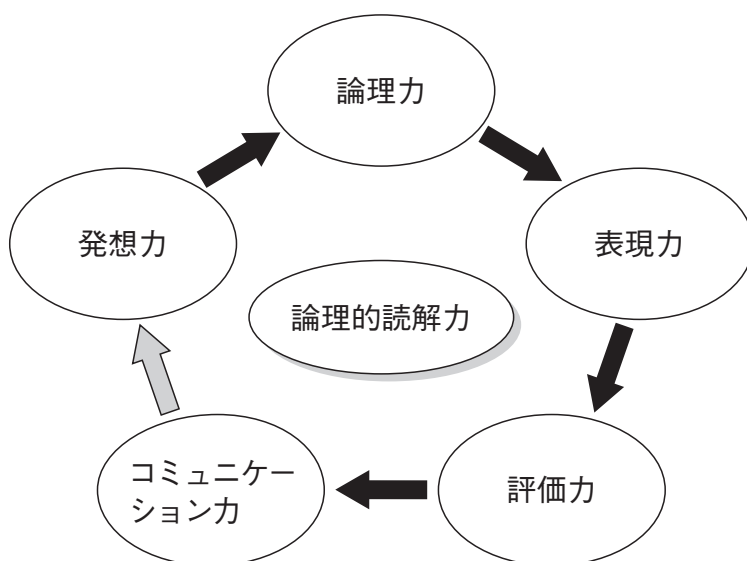


1 読解メソッドでつきたい力

自分の考えを筋道立てて表現するための方法を身に付け、実社会や実生活の中で生かす力

そのために必要な力を次の5つに分類した。

- 発想力**：情報を取り出し、その情報から自分の考えを整理したり広げたり分析したりすることができる力
- 論理力**：筋道立てて考え、表現していく力
- 表現力**：伝えたいことや伝えるべきことを論理的に、相手に分かりやすく表現していく力
- 評価力**：書かれたものや話の内容などを、自分にとって必要なものか判断し、よさや課題を評価し、活用していく力
- コミュニケーション力**：自分の考えを確かにもち、相手に分かりやすく表現したり、相手の表現したことを理解したりして、より考えを深め合える力



この5つの力を小中一貫教育の重点とし9年間のスパンの中で次のような目標を掲げ取り組んでいる。

	1・2年	3・4・5年	6・7年	8・9年
目 標	基盤期		伸長期	
	<ul style="list-style-type: none"> ・国語に慣れ親しみ、言葉に興味・関心をもって親しむことができる。 ・本に自ら親しもうとすることができる。 ・発想を広げていくための方法を獲得し、自分の考えを広げ、整理できる。 ・話すためや書くための型を知り、筋道立てて話したり書いたりすることができる。 ・読書に親しみ、必要な情報を取り出し活用することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを確かにもち、考えの根拠を明らかにして自ら課題解決に向けて活動することができる。 ・相手の考えや立場を踏まえながら、話し合うことができる。 ・必要な情報をもとに自分の考えを組み立て、相手の立場や考えを理解したうえで、自分の考えを効果的・論理的に表現できる。 	
重 点 ・ 工 夫	基礎・基本の獲得期	基礎基本の習得と活用期	学びの充実期	学びの発展期
	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に慣れ親しみ、言葉に興味・関心をもつ。 ・カルタの使い方・活かし方を獲得する。 ・話す・聞くための型を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容を根拠を明らかにして解釈する。 ・カルタの使い方・活かし方を習得する。 ・話す・聞くための型を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容を根拠を明らかにして解釈し、自分の考えを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場・考えを理解しながら、自分の考えを論理的に表現していく。 ・個性を生かした自己表現を展開する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・母語に慣れ親しむ言語環境の充実。 ・直線的なカルタや物語カルタの活用と表現を関連付けた言語環境の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カルタを活かし、情報やテキストを分析する力の育成。 ・論理的な表現力の基礎となる話し合いのルール習得のための言語活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明らかにして意見を述べたり、説明したりする論理的な表現力の育成を図った言語活動の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明らかにして論理的に意見を述べたり、説明したりする論理的な表現力の言語活動の充実。 ・様々な場面設定でコミュニケーション力の育成。

2 取り組みの重点

①論理的読解力を育てる指導法の開発

各教科における「読解力」に関しては、各部会で取り上げ取り組みの重点としていくが、各教科の時間の指導と同時に、年間35時間の特設の時間でつけていきたい「読解力」、年間計画、指導方法について部会を中心に研究を進めていく。

中核となる教材は、『5つの基本が学べるフィンランド国語教科書』北川達夫/訳（経済界・2005）の3年生・4年生版である。フィンランドの国語教科書の教材に沿って、論理的な思考力・表現力を育てるために教材解釈や発問研究など、具体的な授業構想を研究していく。

到達目標レベル	つきたい力	
基本レベル ＜復唱読解レベル＞ ＜結論読解レベル＞	発想力：表現したいことや表現できることを見つめる力	
	論理力：筋道立てて話したり説明したり記述したりする力	
	表現力：相手に伝わるように表現する力	
応用レベル ＜結論読解レベル＞ ＜推論読解レベル＞	評価力：自分や相手が表現しようとしていることを理解する・評価する・吟味する力	
	コミュニケーション力：4つの力を駆使して表現していく力	

◆到達目標レベル内容◆

到達目標レベルを次の3段階に区分し、9年間を系統立て育成していく。

復唱読解レベル：テキストに含まれる情報を取り出すことができるレベル



結論読解レベル：テキストに含まれる情報を他の情報や体験などと関連付け、解釈し、適切な結論を導き出すことができるレベル



推論読解レベル：テキストに含まれる情報と、自分のもっている知識や経験とを関連付け、自分なりの考えを結論付けて論理的に表現していくことができるレベル

②読解メソッドで培った力と他教科、総合的な学習の時間等で培う力との関連

読解メソッドで培った「読解力」と各教科で培う「読解力」を総合させて、子どもたちに「読解力」を育てていく。そのために、次のような点を取り組みの重点にあげている。

- 話し合いのルールを徹底していく。
- 表現していくための『型』を指導していく。
- 各学年で獲得し、使っていくことができる評価語彙を指導していく。
- 連続型・非連続型など多様なテキストを活用していく。
- 話す・聞く・書く・読むなどの多彩な言語活動を関連付けて展開していく。
- 記述する力、説明する力、情報を活用する力を意図的に育成していく。



新聞を活用した国語の学習

③論理的読解力を育てる各学年の授業計画立案

論理的読解力を5つの能力に整理し、学年の系統性を踏まえて授業計画を立案。そのうえで、1時間ごとの指導案を作成し実践していく。その時間の指導目標・指導内容・評価方法・教材教具を確認できるようにし、授業後には、実際に指導を進める中での改善点などを検討し合い、よりよいものにしていく。

◆指導案例◆

読解メソッド学習指導案				
単元名	自分の考えを伝えよう！深めよう！			
教材名	「みんなで銅メダル」	第5学年対象	全2時間	

1. 単元の目標

- 教材文から必要な情報を抽出し、自分の考えを理由や根拠を明らかにして表現することができるようにする。
- 登場人物の人物設定や場面設定をとらえ、自分の考えを明確にして相手に分かりやすく伝えることができるようにする。

2. 子どもにつけたい力

発想力	論理力	表現力	評価力	コミュニケーション力
題名や挿絵、登場人物像から必要な情報を取り出し、発想を広げることができる。	人物や場面の様子から考えられることを、根拠や理由を明らかにして述べることができる。	自分の考えを筋道立てて表現し、相手に分かりやすく伝えることができる。	相手の考えを受け止め、自分の考えを構築したり、修正したりすることができる。	話し合いのルールをもとに、グループやクラス全体で互いの考えを交流することができる。

3. 単元について

本単元では、自分の生活体験や読書経験などから、自分の考えを伝えたり、テキストから必要な情報を取り出し、根拠を明らかにして自分の考えを友達と伝え合ったりすることができるようにすることをねらいたい。そのような活動によって、互いの考えのよさに気付いたり、意見を交流し合う楽しさやおもしろさを実感したりできるようにしたいと考える。

登場人物の人物設定や場面・状況設定を読み取っていくことや、そこから自分ならどう考えるのか、登場人物の考え方や行動に対してどのような評価をしていくのかといったように、自分なりの考えをはっきりもつことができるようにしていく。発想力、論理力、表現力、評価力を総合させて、友達と交流し合えるようにしたい。そのような言語活動を通して、自分の考えを根拠を明らかにして、伝える大切さを実感し、友達と意見を交流し合う楽しさを味わうことができるようにしていく。

また、タイトルや、挿絵から読み取れることや予想できることを話し合い、常に、自分との関わりの中で教材に向かっていくようにしたい。自分の考え方や生き方と、読み取っていったことを関連付けていくことが大切であると考え。自分の意見との相違点を考えていく場を大切にしたい。そのことが、分析力や想像力、評価力を育てていくことになる。そして、互いの考えをしっかりと伝え合うように、グループで話し合う場を設けることで、一人一人が発言できる場を保障していきたい。

4. 単元計画

時間	目 標	学 習 活 動	子どもにつけたい力	支 援
① 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題名、挿絵、教材文から必要な情報を取り出し、自分の考えを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「競争」をした体験を交流し合う。 ・ 題名や挿絵から、話の内容を想像する。 ・ 登場人物の考え方について自分の考えをもち、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題名、挿絵から話の内容を想像することができる。 発想力（発言内容） ・ 話の中から、登場人物について、自分の考えを理由や根拠を明らかにして表現できる。 論理力・表現力（話し合いの様子） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活体験を想起することで、身近な話題としてとらえられるようにする。 ・ 2つのパラダイムの内容から登場人物の様子の変化をつかみやすくし、人物設定について考えられるようにする。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み取った情報をもとに、自分の考えをはっきりさせ、友達と伝え合い考えを深めていくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「競争」とその「結果」について、自分の考えを明らかにして話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見を聞き、同意したり反論したりしながら、話し合うことができる。 評価力・コミュニケーション力（話し合いの様子） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物を3者に絞り、その考え方を板書で整理することで、自分はどの考え方に賛同できるのか、反論があるのか考えられるようにする。

5. 本時の目標

題名や挿絵、文章の中から必要な情報を取り出し、登場人物の言動について考え、友達と意見を交流し合うことができるようにする。

6. 本時の展開

学習内容・活動	教師の活動	評価
1. これまでの生活体験から、「競争」についてどのような思いをもっているのか交流し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や部活動での試合の経験など、具体的な場面を想起して考えられるようにする。 	
2. 挿絵や題名から、話の内容を自由に想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を拡大して提示することで、3位の表彰台に多くの人物がのっていることに気付くようにする。 ・題名「みんなで銅メダル」と挿絵とを関連付けて考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題名、挿絵から話の内容を想像することができる。 発想力（発言内容）
2. 話を読み、登場人物の変化をとらえ、変化させたものは何か考え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのパラダイムをつかみ、父親と主人公のラミの気持ちの変化について考えるようにする。 	
3. 登場人物の「競争」についての考え方の違いをとらえて話し合う。 グループ→全体	<ul style="list-style-type: none"> ・父親とラミの水泳大会での結果に対する考えの違いを整理し、登場人物の考えに対する自分の考えを深めていくようにする。 ・グループで話し合うときの話し合うためのルールを確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中から、登場人物について、自分の考えを理由や根拠を明らかにして表現できる。 論理力・表現力（話し合いの様子）
4. 本時の学習をふり返り、次時の学習へつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・父親の競争に対する考え方と、ラミのクラスでの水泳大会の表彰の方法について考えを整理しながら、よい競争の仕方や、勝敗についての自分の考えを深め、相手を説得できるように話すことができるように助言する。 	

授業の様子



※なお、1、2年生は、フィンランドの国語教科書は使用せずに、語彙力や読書行為力を育てることに主眼をおいている。そのため、「ことば遊び」「かるた遊び」「お話の読み聞かせ」「読書のアニメーション」「五十音表を使って」などの言語活動を展開している。

3 具体的な取り組み

①考えを整理していくための学び方<カルタ>

カルタとは、マインドマップあるいはイメージマップとも呼ばれるウェビング法のような学習方法である。テキストの内容を分析したり、自分の考えを広げたり整理したりして、表現していくための学び方の技法である。1、2年生でもカルタの方法を使って学習している。

このカルタの手法を使うことによって、視覚的に思考のプロセスをとらえられるため、子どもたちにとっては発想の広がりが見つかりやすく、考えを整理することも容易になっている。指導者側からみても、個に対応した支援が可能となる。

このような手法を獲得することによって、各教科や総合的な学習においても活用していく姿が見られた。

児童のカルタカード例

読解メソッド5年 「御所南小学校を他の学校の友達に知らせよう」での取り組み

「御所南小学校」を中心にして、発想を広げていく。「どこにあるの」「いつできたの」「どんな学習をしているの」「どんな子どもたち」など発問して言葉をつないでいく。

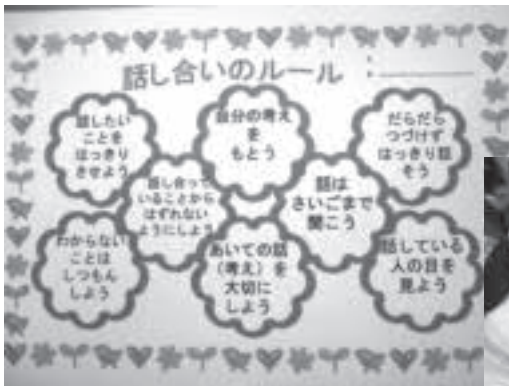


言葉をつなげていった中で、一番説明したいものを選び色を塗る。その順番どおりに説明の練習をする。

②話し合うためのルール

各学年の国語科で学んだ「話す・聞く・話し合う」ための指導内容をもとに、『話し合うためのルール』を次のようなカードにして練習している。話す・書くための『型』を指導するスキルの学習時間も確保している。

話し合うためのルール・2年生用



話し合うためには、形態も大事である。コの字型や口の字型など工夫している。3年生からはグループで話し合う活動を意図的に取り入れていく。

③他教科や総合コミュニティへ生かすために

年間35時間設定された「読解メソッド」の時間に獲得した学習課題を解決するための考え方や、自分の考えを論理的に相手に分かりやすく伝える表現方法を、他教科や総合でも意図的に活用していくようにしている。そのためには、指導者が子どもたちの考えを導き出すような発問を工夫していくことや、常に「なぜ、そう考えたのですか。」「あなたの考えはどうですか。」というような問いかけをしていくこと、表現していくための型を意図的に活かしていくように助言している。

意見を述べるときに使ってみよう！

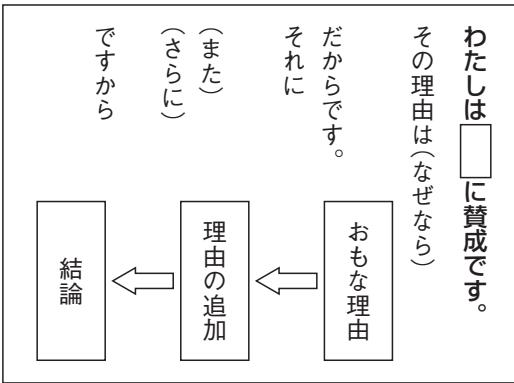
◆理由や根拠を伝えるとき
その理由は なぜかと言うと なぜなら
例えば 第一に(第二に…) まず(次に)

◆理由や根拠を付け足すとき
さらに また つまり 言い換えれば
それに 付け足すと 何よりも

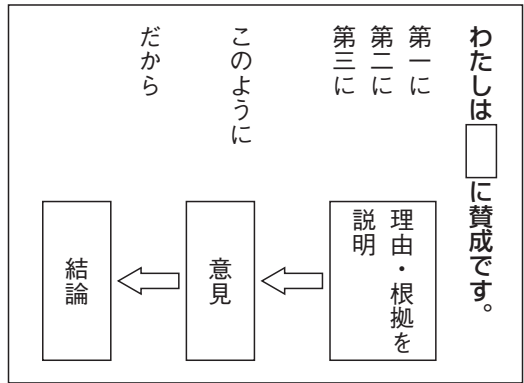
◆結論(考えのまとめ)を伝えるとき
このように 以上のように だから よって
したがって 以上を考え合ると

自分の考えを根拠を明らかにし、筋道立てて表現していくために、「型」を示したカードを活用。繰り返し練習するなかで、自己表現できる力が育つ。

〈発表の型 その1〉



〈発表の型 その2〉



聞き手(読み手)である子どもたちは、特に「理由・根拠」となる説明に注目する。能動的な聞き方(読み方)を重視する。

- 自分の考えとの相違点を明らかにする。→賛成か？反対か？なぜそう考えたのか？
- 理由・根拠となる情報を吟味する。→本当にそうなのか？違う観点から考えると？
- 同意、補足、反論、質問など考えを高め合うために話し合う。→自分の考えは？

④言語環境の充実

子どもたちが興味をもって主体的に学んでいくように、校舎全体が学びの場となるような工夫をしている。本部会では『詩を読もう』『ことばランド』を月替わりで作成し、子どもたちが言葉に関心をもてるように、豊かな言語環境の整備に努めている。

「読解力」を育成するためには、言語に興味・関心をもてるような子どもたちを育てることが大切と考え、学校全体の言語環境の整備を各部会においても推進している。

ことばランドの取り組み



〈低学年用ことばランド〉
口を大きく開けて読もう



〈高学年用ことばランド〉
こんなことわざ知っているかな
数を使ったことわざのいろいろ

詩をよもう



月ごとに、季節や学校行事などの関連を考へて、詩を選び掲示する。詩の解釈の例を紹介したり、考へてほしいことを問い掛けたりするなどのコメント欄も掲示する。

4 「読解力」向上に向けた実践力を高めるために

①教師の指導力向上をめざして

子どもたちの「学ぶ力」「基礎・基本となる力」の育成のための基盤として位置付けた「読解メソッド」の学習であるが、指導する教師の指導力を高めていかなければ成果を得ることはできない。しかし、新たに取り組んでいこうとする学習だけに、どのような時期に、どのような学習内容を、どのような方法で、どのように評価して進めていくのか、課題は山積みであった。

まず取り組んだことは、OECDによるPISA調査の内容や結果分析からみえてくる日本の教育の課題をどのように受け止めるかということ。次に、読解に関する意識調査の集計結果や全市学力定着調査結果の分析からみえる本校児童の実態と課題を共通理解して把握することであった。

そして何よりも授業を実践して研修を深めていくことである。授業を公開することはもとより、一つの単元をグループで検討し合うワークショップ型の研修を多く取り入れた。グループでのワーキングが終了すれば、各グループから報告を行い、また全体の場で意見を交流し合った。このような参加型の研修を通して「読解力」向上に向けて学校全体で取り組む意識が大きく前進することにつながった。



②フィンランドの学校教育に学ぶ

「読解メソッド」の中核教材はフィンランドの国語教科書である。（『5つの基本が学べるフィンランド国語教科書』北川達夫／訳（経済界））そこで、実際にフィンランドの学校現場ではどのように指導を進めているのかということ学ぶために、フィンランドの小学校現場での研修を行う機会をもった。「自ら考える力」を育成するための取組を実際に視察したり、フィンランドの小学校教員と意見交流したりする研修の場をもったことは、大きな収穫である。教師主導ではなく、子どもに寄り添い個を生かす指導のあり方について学ぶところが多い。

今後に向けて

平成18年度より新たに設定された「読解メソッド」の学習を、多くの子どもたちは「楽しい」と感じている。それは、どのようにすれば伝えたいことがよく伝わるのか、その方法がわかり、伝え合う楽しさを実感できたからである。特に基盤期の1・2年で繰り返し練習してきたカルタ(イメージ・マップ)の取り組みは、子どもたちにとって、自分の考えを広げたり整理したりするうえで有効な学習方法として習得していった。

また、「読解メソッド」の時間に獲得した5つの力(発想力・論理力・表現力・評価力・コミュニケーション力)を他教科や総合的な学習に生かしていくように、指導者自身が意図的に働きかけていくことができた。教師自身の意識改革が進めば、実践につながり結果を得ることができることを実感している。

今後は、「読解メソッド」で身につけていく5つの力と、各教科を貫く「読解力」との関連を明確にして、系統立てた力の育成を推進していく必要がある。また、子どもたち自身が、学び取り獲得した力を、相手や目的、場面状況などに応じ、適切に活用していくことができるような力に高めていくことが必要である。それには、子どもたちのメタ認知能力を高めていくことが大切だと考えている。同時に、子どもたちにつけたい「読解力」が個々に十分に育っているのか、評価するための規準、方法、判断などを、より明確にしていく必要があると考えている。検証方法と共に部会を中心に検討していきたい。

新しくスタートした「読解力」向上を目指した「読解メソッド」の時間の取り組みに対して、保護者からも熱い視線が注がれている。このような取り組みに多くの保護者から賛同を得ており、今後は家庭と、読書活動や家庭学習の定着を図っていく取り組みを推進していくために、協働して進んでいきたいと考える。「読解メソッド」を中心として高めていく論理的読解力が、よき町衆(市民)となる子どもたちの未来につながる力になるように、カリキュラム改革や教員研修を含め、確かな取り組みをすすめていこうと考える。

さらに、小中一貫教育を推進するためにも、学習の目標設定、学習内容、学習方法の系統性が十分に機能しているのか検証をすすめていくことも必要である。今年度の取り組みの成果と課題を明確にして、今後の取り組みに生かしていくようにしたい。

